

設問番号	I
解答又は 解答例	(1) 基本的帰属の誤り (2) 自己奉仕的バイアス（セルフ・サービング・バイアス） (3) 弁別性 (4) 一貫性 (5) 合意性
出題の意図	本設問は、社会的認知・対人認知における「原因帰属」について、受験者が基本的な理論用語と概念を正確に理解し、記憶・再生できているかを確認することを主眼としています。具体的には、①帰属バイアス研究の基礎知識と、②ケリーの共変モデルの双方について、単なる用語の暗記にとどまらず、それぞれの概念が指し示す認知過程の違いを正しく区別できているかを問うています。 特に(1)と(2)は「内的要因への偏り」という共通点を持ちながら、対象が「他者の行動」か「自分自身の成功・失敗」かで異なる現象として区別する必要があり、また(3)～(5)は共変モデルの3情報源をそれぞれ独立した概念として正確に弁別できるかが問われています。

設問番号	II
解答又は 解答例	1 スピアマン 2 内集団バイアス（内集団びいき） 3 視床下部 4 選好注視 5 コア・アフェクト 6 ノルアドレナリン 7 意味 8 発達最近接領域 9 適性処遇交互作用 10 気分状態依存
出題の意図	本設問は、心理学の基礎領域（知能、社会心理学、生理心理学、発達心理学、記憶、感情、学習・教育心理学）にまたがる代表的な理論・概念・研究法について、受験者が幅広くかつ正確な基礎知識を有しているかを網羅的に確認することを目的としています。 また、単なる用語の暗記だけでなく、具体的な人物のエピソード（隼人さんなど）を用いた文脈依存の出題形式を採用することで、心理学の理論的知識を実生活や研究場面に結びつけて考える能力があるかどうかと同時に評価しようとしています。

設問番号	III
解答又は 解答例	1 中央値 = 19 ($(18+20)/2$)、最頻値 = 25 2 相関係数 $r=0.5$

	3 第一種の過誤（タイプ I エラー） 4 調整変数（モデレーター変数） 5 独立変数（説明変数）群によって従属変数の分散の 45%が説明されることを示す
出題の意図	本設問は、大学院進学後に自ら心理学研究（特に量的研究）を計画・実施・解釈するために必要な基礎的な統計的スキルと、データを批判的に読み解く力を有しているかどうかを測定することを目的としています。具体的な数値データを与えて実際に計算させる形式（設問 1・2）と、統計的推論や研究デザインにおける基本概念を説明させる形式（設問 3～5）を組み合わせることで、記述統計・推測統計・多変量解析という段階的に高度化する統計知識を総合的に評価しようとしています。

設問番号	IV
解答又は 解答例	<調べる変数> 独立変数：英語教授法（A 教授法を用いる群 vs. 統制群〔従来の教授法、あるいは無介入群〕） 従属変数：長文読解の成績（例：標準化された英語長文読解テストの得点） 統制変数（剰余変数）：参加者の英語習熟度（事前テストの得点など）、年齢・学年、指導者、指導時間・回数、教材内容、学習環境（クラスサイズ）など、従属変数に影響を及ぼしうるがこの研究の関心外の変数 <実験の進め方（例：事前テスト－事後テスト統制群デザイン）> 参加者の選定と振り分け：対象となる学習者集団から参加者を募り、英語習熟度などの背景変数が偏らないよう、実験群（A 教授法群）と統制群（従来の教授法群）にランダムに振り分ける。 事前テストの実施：介入前に両群に対して長文読解テストを実施し、群間に有意な差がないことを確認する（統制変数としての初期能力の統制）。 介入（操作）の実施：実験群には A 教授法による指導を、統制群には従来の教授法（あるいは無介入）による指導を、期間・時間数・教材などの条件を統一した上で一定期間実施する。 事後テストの実施：介入終了後、両群に同一の長文読解テストを実施し、成績を測定する。 データの分析：事前テストの得点を共変量とした共分散分析（ANCOVA）、あるいは群（A 教授法群・統制群）×時期（事前・事後）の 2 要因分散分析などを用いて、A 教授法の効果（群間差）が統計的に有意かどうかを検討する。 倫理的配慮：インフォームド・コンセントの取得、統制群への配慮（研究終了後に希望者へ A 教授法を提供する等）を行う。
出題の意図	本設問は、心理学（特に教育心理学・実験心理学）における実験研究法の基本設計力を、具体的な研究テーマ（英語教授法が読解成績に与える影響）に即して実践的に問うものです。単なる統計知識や用語の暗記にとどまらず、①独立変数・従属変数・

	統制変数を的確に区別し設定できるか、②実験統制の発想（ランダム振り分け、事前テストによる群の等質性確認、条件統一など）を持っているか、③適切な実験デザイン（事前事後テスト統制群デザインなど）とそれに対応する分析手法を選択できるか、という一連の研究計画立案能力を総合的に評価することを意図しています。
--	---

設問番号	V.1.							
解答又は 解答例								
	a.	b.	c.	d.	e.	f.	g.	h.
	㉑	⑤	①	⑥	⑩	⑪	②	⑦
出題の意図	児童の心理臨床に関わる主要な理論や心理療法について、基本的な人物、概念、用語とその関係を理解しているかを確認する。							

設問番号	V.2.			
解答又は 解答例				
	①	②	③	④
	ポジション	対象関係論	対象	練習期(分離も可)
出題の意図	児童の心理臨床に関わる主要な理論や心理療法について、基本的な概念や用語を理解し、文脈に応じた専門用語を正しく記述できるかを確認する。			

設問番号	VI.1.
解答又は 解答例	②
出題の意図	職場で発生するパワーハラスメントに関して、表面的な言動だけで判断するのではなく、業務上の必要性や指導の内容、方法などを踏まえて適切に判断できるかを問う。

設問番号	VI.2.
解答又は 解答例	以下の3点を確認する。 ① 社内心理職の特徴について理解していること。 ② 外部 EAP の特徴について理解していること。 ③ 社内心理職と外部 EAP のそれぞれの特徴を踏まえ、両者の役割や支援のあり方の違いについて適切に説明できていること。

出題の意図	臨床心理学の主要な実践領域の一つである産業・労働領域について，社内心理職と外部 EAP という異なる支援形態の特徴と役割に関する基本的な理解が身についているかを確認する。

設問番号	VI.3.
解答又は 解答例	以下の 3 点を確認する。 ① 管理職が行うラインによるケアの内容について，具体的に理解していること。 ② ラインによるケアを適切に行うために必要な管理職研修の内容について説明できていること。 ③ 社内心理職として，管理職への相談支援やケース検討，従業員への個別支援など，ラインによるケアを支える役割について理解していること。
出題の意図	職場のメンタルヘルス対策の柱の一つである「ラインによるケア」の基本的な考え方を理解するとともに，社内心理職として，管理職への研修や相談支援，従業員への個別支援などを通して，ラインによるケアを支えるための具体的な支援を考えることができるかを確認する。